

1. 平成元年度総会、講演会等

平成元年度のお茶の水地理学会総会・講演会は、5月13日（土）午後2時から、一般教育2号館102室で開催された。参加者は38名であった。

総会では、昭和63年度事業報告・会計報告・平成元年度事業計画案・予算案が報告、承認された。

引き続いて行われた講演会では、中島直子氏（25回生、群馬県立女子大学助教授）による「大台ヶ原山（吉野郡上北山村）における自然公園の利用と保護」、田宮兵衛助教授による「異常天候と地域産業の関連についての意識調査—特に稲作について」の2題の講演が行われた。

懇親会は、音羽通りのレストラン「グランドール」で開催され、21名が参加した。

2. 懇親会

11月25日（土）、昨年に続いて、「地理教育を考える」をテーマに、今西郁子氏（17回生、東京学芸大学附属高校教諭）、菊池美千世氏（30回生、お茶大附属高校教諭）、釘宮由佳理氏（33回生、桜蔭学園中・高校教諭）の3名の方々から、社会科の地歴科・公民科への解体に伴う諸問題、高校3年生の社会科及び「地理」に対するアンケート調査、「地理」で教える内容に関する問題などが報告された。参加者は23名であった。談話会のあと、ビアパーティーを開き歓談した。

3. 見学会

4月23日（日）、横浜市緑区における都市開発と農業の保全」をテーマに行われた。案内者は石田裕子氏（4回生）で、20名の参加があった。午前中は、横浜市と住宅・都市整備公団によって20年前から開発の行われている港北ニュータウンを見学した。当地は1戸建てや中・低層住宅を中心に、公園・緑地が整備され、渋谷まで約35分、相互乗り入れの地下鉄半蔵門線が三越前まで開通した現在では、大手町まで約50分と都心に直結した住宅地として人気の高い場所である。近年の地価高騰の影響を受け、高層マンションの建設も行わ

れていたが、ニュータウンに隣接して、この用地内に農地が「農業専用地区」として存続しており、全体としてはゆとりある居住空間が維持されている。

その後、横浜市営地下鉄の工事現場や富士信仰の名残りを止める川和富士公園などを見学し、午後は、緑区の北端に位置する「ふるさと村」を訪れた。ここには、茶の湯用の木炭の製造卸問屋、茶釜や陶器の生産者や、刀研ぎなどの伝統的な職種が集まり、山里の雰囲気や漂わせたなかに、レクリエーション施設なども整備されて観光地ともなっている。

「ふるさと村」も谷を一つ越えれば、民間資本の開発による住宅地が広がっている。拡大する住宅地と、それによって押し込まれていく伝統的な産業の対照は、「開発と保全」という今回のテーマを象徴しており、緑区の場合は成功している例と言えるだろう。

4. ニュースレターの発行

No.15 1989年7月31日（10ページ）

No.16 1990年3月15日（4ページ）

5. その他

(1) 平成2年度総会、講演会は5月12日（土）午後1時30分から開催の予定である。また、懇親会は、同日夕刻に、3月31日をもって御退官される浅海重夫先生の退官記念パーティが開催されるため、今年度は開催しない。

(2) 役員（昭和63年度～平成元年度）

総務 式 正英

企画 浅海 重夫、内藤 博夫、和田 明子、
瀬戸 玲子、小池とみ子、向後紀代美、
三瓶 直子、生井沢幸子、釘宮由佳理
編集 栗原 尚子、田宮 兵衛、阪口 陽子、
武田むつみ、村松 晶子、河井みどり、
渡辺真紀子、室伏 朝子、小笠原洋子、
福嶋 依子

会計 井内 昇、木曾 久子、厚井 和子、

滝沢由美子, 新保 彰子, 新井 桂子
庶務 久保 幸夫, 小野美代子, 東山セツ子,
金子 晶子, 鈴木 陽子, 中島 直子,
菊池美千世, 新井 桂子, 小林 里美
(3) 会員数 (平成元年4月10日現在)
総会員数 527名

学部卒業生会員 397名 (卒業生552名)
大学院・専攻科修了会員 12名 (修了者21名)
学生会員 90名
大学院生会員 2名
教官会員 6名 (卒業生を除く)
特別会員 20名 (会費免除会員5名を含む)

会 員 消 息

平成元年度の卒業生は23名で、進路は以下の通りである。

荒井晶子 (NTT北海道支社), 石沢亜紀子 (東京海上火災), 稲永麻子 (リモートセンシング技術センター), 大畑早苗 (日本長期信用銀行), 木ノ下真紀 (大和銀行), 仙田裕子 (東大大学院), 高木裕子 (北陸銀行), 田中亜希子 (日本交通公社), 津末千早 (JR東海), 寺嶋愛子 (本学大学院), 床次久美 (リズム時計工業), 仲田百合 (JCB), 二橋一代 (長銀総合研究所), 畑 佳子 (野村総合研究所), 松浦紅子 (住友重機械), 松木知子 (ICU大学院), 森 元子 (住友重機械), 保田真紀 (富士総合研究所), 山田昌代 (増進会出版社), 大和明子 (NHK), 吉住理恵子 (メリーチョ

コレート), 吉田道代 (本学大学院), 関原淑子 (立教英国学院)。

また、大学院修士課程修了者は2名で、青木真里は勸日本立地センター、浦野明子は情報通信総合研究所に就職する。

栗原武美子氏 (昭和52年修士課程入学) は、カナダ在留8年の後、平成元年9月に帰国、平成2年4月より明治学院大学で非常勤務講師に就く予定。渡辺真紀子氏 (27回生) も、4月より中央学院大学で一般教育 (地理学) の専任講師就任の予定である。田中恭子氏 (昭和52年修士課程入学) は、オハイオ州立大学地理学科博士課程に在籍、T. A. を勤めながら研究中である。

地理学教室動向

1. 教官の異動など

浅海重夫教授は平成2年3月31日をもって停年退官される。本教室の在職期間は37年半におよび、地理学科教官の中では最長記録である。同教授の最終講義は2月17日 (土)、一般教育1号館304室において「世界の土壌分類と分布について - FAO-Unescoの新しい分類システムの紹介と批判を中心に」の演題で行われ、多数が聴講した。

久保幸夫講師は平成元年4月1日付で助教授に昇格し、大学院 (修士課程) 併任となり、専門講義や卒論指導にも加わって頂けることになった。

式正英教授は、平成元年3月末で、附属高等学校校長の3年間の任期を満了し、同4月から地理

学教室主任となった。

浅海教授のあとの自然地理学講座には、杉谷隆氏 (東京大学教養学部助手, 地形学) の4月1日就任が予定されている。なお、井内昇教授は、平成2年3月末で附属小学校校長の任期が満了となる予定である。

教官の学内委員会の就任状況 (平成元年度) は以下の通りである。

浅海重夫教授 (自然科学紀要編集委員, 廃水管理委員 (9月30日まで), 生活環境研究センター研究委員 (6月30日まで)), 式正英教授 (教室主任, 予算委員, 施設計画委員, 生活環境研究センター運営委員, 人間文化研究科講座委員), 井内昇教授 (附属小学校校長, 4年生補導委員, 生活

環境研究センター研究委員，附属学校教育研究委員），内藤博夫教授（3年生補導委員，購入物品機種選定委員，学芸員課程委員），栗原尚子助教授（1年生補導委員，入学試験委員，人文科学紀要編集委員），田宮兵衛助教授（2年生補導委員，臨海実験所運営委員，廃水管理委員（10月1日から），入試方法検討委員），久保幸夫助教授（1年生補導委員，RI実験室運営委員，情報処理センター運営委員）。

また，田宮助教授は，平成元年12月7日～17日，「気候変動と水管理に関する国際セミナー」参加のため，エジプト（カイロ）に出張した。久保幸夫助教授は，平成元年3月28日～4月9日，SORSA，及びAUTOCARTO9出席のため，アメリカ合衆国へ，同11月19日～26日，中日工程技術検討会出席のため，台湾へ研修旅行した。

2. 専任教官の担当科目

浅海重夫教授：地質学，地理学演習Ⅱ，土壤地理学，自然地理学実験Ⅱ，自然地理学特論Ⅰ（院），同演習Ⅰ（院）

式正英教授：地理学概論，地誌学，地形学Ⅰ，地理学演習Ⅲ，地形学Ⅱ，地誌学特論Ⅱ（院），同演習Ⅰ（院）

井内昇教授：集落地理学，地理学演習Ⅰ，都市地理学，人文地理学特論Ⅰ（院），同演習Ⅰ（院）

内藤博夫教授：地理学概説，経済地理学Ⅰ，日本地誌Ⅰ，地理学演習Ⅲ，経済地理学Ⅱ，地誌学特論Ⅲ（院），同演習Ⅱ（院）

栗原尚子助教授：地図学演習，外国地誌Ⅰ，地理学演習Ⅰ，地理調査法，人文地理学特論Ⅲ（院），同演習Ⅱ（院），地理学（一般）

田宮兵衛助教授：気候学Ⅰ，地理学演習Ⅱ，陸水海洋学，気候学Ⅱ，自然地理学実験Ⅰ，自然地理学特論Ⅲ（院），同演習Ⅱ（院）

久保幸夫助教授：日本地誌Ⅱ，地誌学特論Ⅴ（院），情報学Ⅰ（一般），同Ⅱ（一般），情報処理講義演習（一般），情報学講義演習（学部共通），情報学特講（学部共通）

全教官担当：地理学演習Ⅳ，野外巡検，卒業論文指導，野外調査（院）

3. 非常勤講師とその担当科目

鈴木陽子：地図学

高橋伸夫（筑波大学助教授）：外国地誌Ⅱ

中島義一（駒沢大学教授）：歴史地理学

滝沢由美子：写真地理学

高阪宏行（日本大学助教授）：計量地理学

大友篤（宇都宮大学教授）：地理学特殊講義Ⅱ

宮口伺勉（早稲田大学教授）：地理学特殊講義Ⅳ

諏訪哲郎（学習院大学助教授）：地理学特殊講義Ⅴ

井手久登（東京大学教授）：人文地理学特論Ⅴ（院）

浜田竜之介（東京農工大学教授）：自然地理学特論Ⅴ（院）

向後紀代美：地理学（一般）

細野昭雄（筑波大学教授）：国際関係論（一般）

杉谷隆（東京大学助手）：情報処理講義演習（一般）

荒牧重雄（東京大学教授）：地学（地質鉱物）（一般）

坂下英喜（お茶大附属中学校教諭）：社会科教育法

4. その他

飯本信之名誉教授は，平成元年6月12日午前8時13分，腎不全のため逝去された。同14日東中野御自宅で通夜，同15日告別式が行われた。教室からは生花，浅海教授が教室を代表し弔辞が捧げられた。

なお，浅海教授退官記念事業については，昭和63年11月26日実行委員会を発足させて，事業計画を立案し，卒業生を中心に発起人を依頼，賛同者を募りながら実施に向かって進行中である。実行委員会の編成と主要事業の内容は以下の通りである。

実行委員会：式正英（委員長），井内昇（副委員長，会計），内藤博夫（庶務），田宮兵衛（幹事），久保幸夫（記録），岡田久美子（企画），木曾久子（企画），向後紀代美（記録），二瓶直子（会計），栗原尚子（編集），渡辺真紀子（庶務），松本圭子（編集），新井桂子（会計）。

事業：1)発起人に呼びかけ，賛同者を募る，2)記念事業基金の募集，3)最終講義の開催，4)「お茶の水地理」退官記念号の編集，5)「人文科学紀要」掲載の浅海論文の抜刷増刷，6)「土壤地理学」（古今書院刊）出版への協力，7)記念品贈呈，8)退官記念パーティの開催。